

JTA アニュアルカンファレス 2025

現場の知見で未来を創る

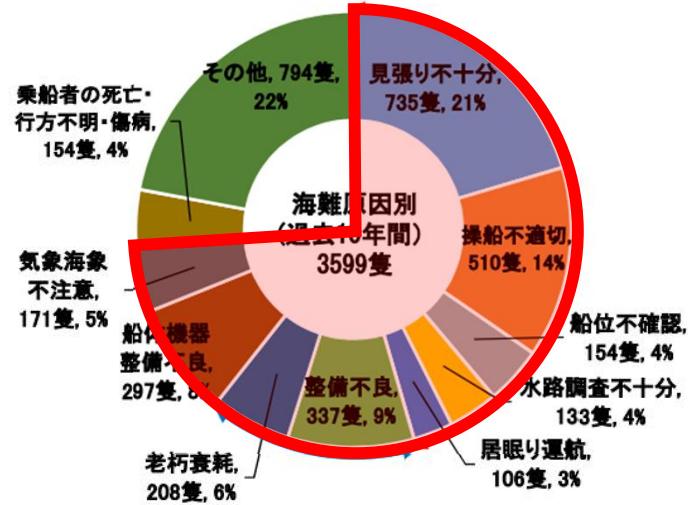
2026年1月15日

株式会社 日本海洋科学 / 運航技術グループ / 桑原 悟
DFFAS+ コンソーシアム プロジェクトディレクター



株式会社 日本海洋科学
Japan Marine Science Inc.

内航海運が抱える課題と自動運航船が生み出す価値



航海事故の約8割は
人的要因

海上保安庁「海難の現況と対策」2022年版

船員不足

船員の有効求人倍率: 4.59倍

全職種平均: 1.26倍

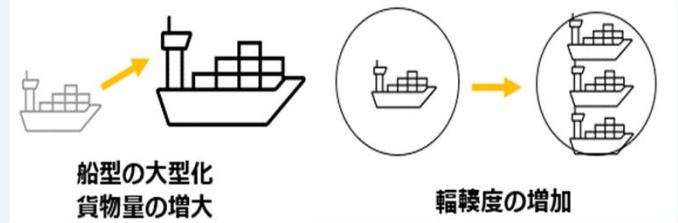
2025年5月（日経新聞）

(2040年には現在比30%の船員不足)

安全性
向上
自動運航船の
価値

船員不足
解決

物流の
安定



周囲環境・船型変化による
操船難易度の上昇
(操縦性低下・輻輳度増加)

将来の海上輸送増大
(トラックから船舶&鉄道へ)

モーダルシフトの推進

鉄道、内航海運の輸送量・分担率を増強



(参照) 内閣府物流革新緊急パッケージ

無人運航船プロジェクトMEGURI2040 & DFFAS+

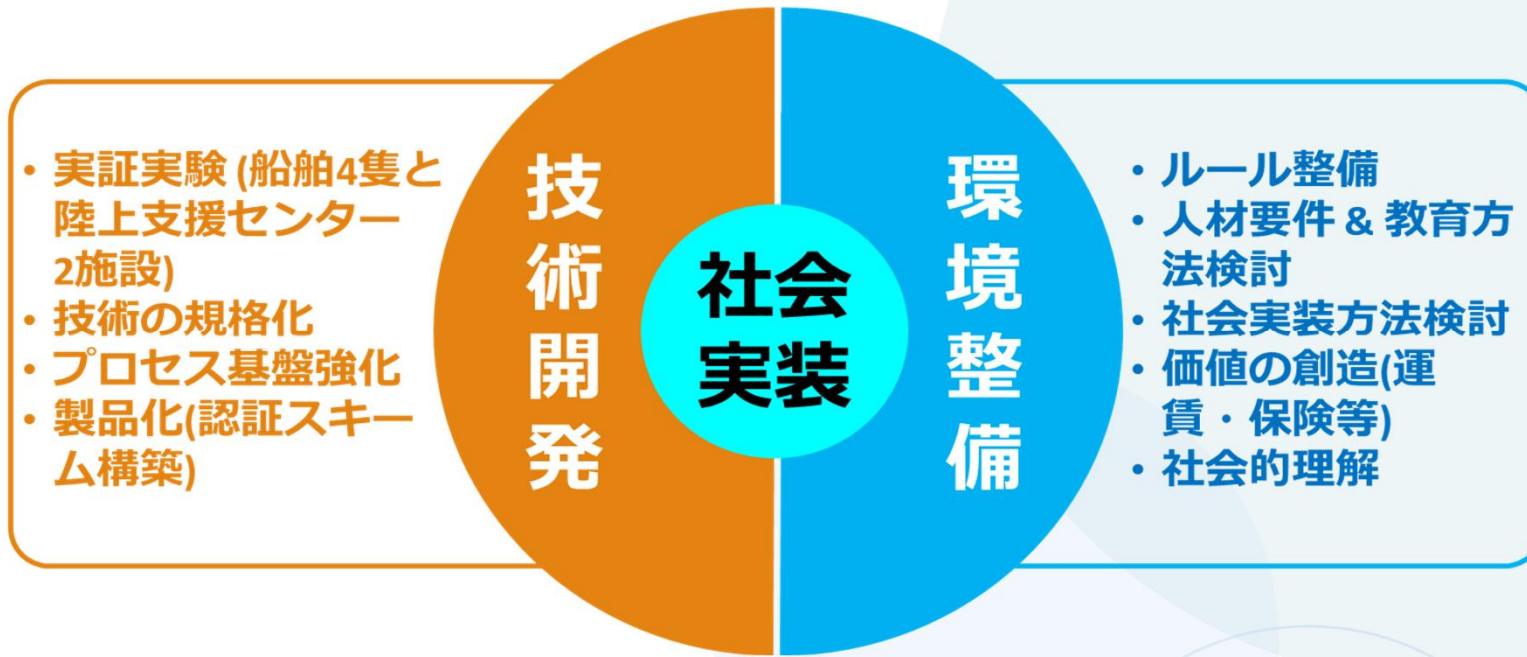


無人運航船の社会実装により日本の物流を支える
内航船業界の労働力不足の解決 (=国内物流の健全性維持)を目指すプロジェクト



無人運航船に必要な技術の開発 & 無人運航船技術を社会実装するための環境整備に取り組む国内53社で構成するコンソーシアム

MEGURI2040における取り組み



社会実装 = 実用化(実運用) = 自律商業運航 (貨物・旅客 積載&乗組員のみで運航)

2025年12月5日
実証船 おりんぴあどりーむせと (旅客船) が社会実装の一歩を踏み出しました

最後に

現場の知見で 未来を創る



「DXイノベーション賞」、ありがとうございました

海に学び、人を紡ぎ、未来を織りなす



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

免責事項

本資料は、電子的または機械的な方法を問わず、当社の書面による承諾を得ることなく複製又は頒布等を行わないようお願いします。

Legal Disclaimer

No part of this document shall be reproduced, stored in a retrieval system or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording or otherwise, without the prior written permission of Japan Marine Science Inc.